

令和 3 年 6 月 30 日

呉竹鍼灸柔整専門学校
校長 村上 哲二 殿

学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会報告

令和 2 年度自己点検・自己評価結果に基づき、下記のとおり学校関係者評価を実施したので、その結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 齋藤 武久 (公益社団法人 神奈川県柔道整復師会 会長)
- ② 大淵 真 (一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサージ師会 副会長)
- ③ 清水 慎司 (公益社団法人 神奈川県鍼灸師会 会長)
- ④ 戸畑 智秋 (ちあき接骨院・ちあき鍼灸マッサージ院 院長)
- ⑤ 金城 岳大 (株式会社 リライフ 代表)
- ⑥ 佐久間 裕之 (源和鍼灸院 院長)
- ⑦ 阿久津 弘宣 (なおしや はり灸整骨院 院長)
- ⑧ 木ノ内 秀効 (田子浦鍼灸接骨院 院長)
- ⑨ 鈴木 昌子 (在校生保護者)
- ⑩ 岩井 美弥子 (卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

- ・令和 3 年 3 月 2 4 日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 8 階・講堂)
- ・令和 3 年 6 月 2 4 日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 8 階・講堂)
- ・令和 3 年 1 2 月 1 5 日 (呉竹鍼灸柔整専門学校 8 階・講堂) ※予定

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

I 重点目標について

1. 新型コロナウイルス感染症対策に関連した学生支援体制の整備

コロナ禍において学内での感染を防ぎつつ、教育活動を維持していくため、学内に安全対策委員会を設置し、感染症対策マニュアル及び行動規範を策定した。学生・教職員は感染症対策マニュアル及び行動規範を遵守し、長引くコロナ禍において学内での感染抑止に成功している。また、遠隔授業の体制を整え、緊急事態宣言下ではオンラインでの学修機会を確保した。同時に、校舎全館に Wi-Fi 環境を整備するとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）委員会を立ち上げ、教育の ICT 化やデジタル人材の育成等について検討を進めている。これにより、教育の質の向上及び業務効率化に寄与されることを期待する。

2. 教育成果の質の向上

教育成果の質の向上では、アウトカム基盤型教育の強化、初年次教育の強化、臨床実習の強化を掲げている。令和2年度はコロナの影響により対面でのグループワークや臨床実習に制約が生じ、例年以上の成果は残せなかった。コロナ禍においても学修成果を高められるよう効果的な手法を検証していただきたい。

3. 就職率の向上

令和3年5月時点の就職率は95.7%と高水準を維持している。2020年から運用を開始した新求人システム「キャリアマップ」については、利用登録の促進が課題となっている。周知案内や活用方法を工夫し、就職活動に効果的に活用していただきたい。

II 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

教育理念、目的、育成人材像等は教務規程に定めており、学校案内、ホームページ、学校生活の手引き等で周知が図られている。

育成人材像は、外部人材から構成される教育課程編成委員会において業界等の人材ニーズを反映するとともに、企業等の協力を得て実習を実施している。平成26年3月には職業実践専門課程として文部科学大臣の認定を受けている。

カリキュラム改正後、学外実習の実施にいち早く取り組み、企業等との連携を密にして育成人材像や業界ニーズの把握に努めている。これからの時代に必要な資格者を養成するため、引き続き業団等との積極的な関わりや情報交換を通して、教育の質の向上に取り組まれることを期待する。

2 学校運営

学校運営は、運営方針、事業計画に基づいて行われていることを確認した。

設置法人の組織運営は、寄付行為に基づき理事会・評議委員会で決議され、その結果は議事録に記録されている。学校運営の組織は、学則に規定する教職員組織から成り、学内の組織及び分掌規程に基づき学校運営が行われている。

人事・給与に関する制度では、理念や学校重点目標を達成するため、各部署毎の上位方針に基づいて個人目標を設定し、毎年度2回実施する人事評価において達成状況等の確認を行っている。また、教職員の育成や組織の活性化を図るため、外部委託による人事評価研修を実施している。

情報システム化による業務の効率化への取り組みについては、学生募集、就職支援、成績集計、経理においてクラウドシステムが活用されている。情報セキュリティについては、外部からの不正アクセスや内部の情報漏出を防ぐセキュリティゲートが設置され、常時モニタリングされている。

令和2年度には、学園内にDX（デジタルトランスフォーメーション）委員会を設置し、デジタル化やICT化による教育の質の向上や業務効率化に着手している。

3 教育活動

教育活動は、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師及び柔道整復師の養成施設として、職業実践教育及びキャリア教育の視点から、定められた教育目標、育成人材像、教育方針等に基づき行われている。

教育課程は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーにおいて方針を明示し、教育課程編成委員会における外部委員の意見を参考にしながら、業界ニーズとリンクするように授業科目や教育内容等の見直しが行われている。教育目標、教育方針、育成人

材像、ディプロマポリシー、シラバス、成績評価等は、ホームページ、パンフレット、学生便覧等により広く周知されている。

資格・免許取得については、カリキュラムにおいて国家試験が求めるレベルを設定し、定期試験や卒業試験等により評価を行い、学習指導に役立てている。国家試験の指導体制では、担任を始め各教科担当者が学生 1 人ひとりの成績状況に応じて補習などを設定し、成績の向上に努めている。また、国家試験不合格者に対しては、授業を無料で受講できる聴講生制度を設けているほか、有料の国家試験対策の塾を開設しており、既卒者向けの国家試験サポートも充実している。

教員の資質向上については、学園内に設置する教育センターによる FD 活動、学校協会主催の教員研修会、学会・業団等のセミナー等に組織的に参加することで、教員の能力開発、スキルアップに努めている。

4 学修成果

学修成果の内、就職については就職率 100% を目標に掲げ、キャリアガイダンスや合同企業説明会の開催などを通して就職支援が行われている。令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響で就職活動の時期が全体に遅れたものの、就職率は 95.7% と目標に近い水準となっている。国家試験に向けて就職活動が後回しになる学生もいることから、2 年次後半から 3 年次前半にかけての就職指導を強化していく必要がある。

国家試験合格率は全員合格を目標に掲げ、例年全国平均を上回る高水準の合格率を維持している。令和 2 年度国家試験合格率は、あん摩マッサージ指圧師が 100%、はり師が 88.4%、きゅう師が 91.3%、柔道整復師は 73.3% でいずれも全国平均を上回る結果となっている。しかし、新カリキュラムの移行に伴い国家試験の出題傾向も変化していることから、その対策について検証が進められている。

卒業生の社会的評価の把握については、校友会組織「呉竹会」、就職先及び実習先との連携や卒業生の取材、関係団体が主催する学術大会等を通して卒業生の社会的評価や活躍状況の把握に努めている。

5 学生支援

学生支援のうち、就職に関する支援では、教員と事務職員が連携して合同企業説明会やキャリアガイダンスを開催し、進路状況の調査・把握を行っている。就職活動を経験したことがない若年層の学生が増えていることから、履歴書の書き方、面接指導、社会人としてのマナー教育などの後方支援の実施も必要である。また、外部臨床実習とリンクして、就職先となる治療院の情報は可能な限り積極的に把握し、情報を共有しておくことが望ましい。

退学率の低減では、成績不良や出席不良を発端に退学につながる人が多いことから、早期の学力把握、個別面談、補習等の対策が行われている。しかしながら、令和元

年度の中退率は4.9%であったのに対し、令和2年度は8.0%と増加した。顕著なのは1年生の退学者が半数以上を占めている点で、コロナ禍での学習不安や学習意欲の低下、進路変更、経済状況の悪化などが退学の理由となっており、長期化するコロナに関連した支援が必要となっている。

学生相談に関する体制では、各学年ごとに担任・副担任が置かれており、学生が相談しやすいよう複数の教員で相談に乗れる体制が敷かれている。学生の心理的なケアに関しては、令和3年度からスクールカウンセラーの配置が計画されている。

学納金等の経済的支援では、学校独自の奨学金制度、授業料減免制度、特待生制度が設けられているほか、令和2年度から国が行う高等教育の授業料等負担軽減制度（大学等の修学支援に関する法律）の対象校となっている。

学生の健康管理では、胸部X線検診及び健康診断を毎年実施し、学生の健康状態を把握している。校内や実習先での事故等に備え、学生傷害災害保険及び医療分野賠償責任保険に加入している。

保護者との連携体制では、成績不良や出席不良の学生に対して電話や三者面談を実施し、その記録を保管している。保護者との連携を図る上で、学校の情報を提供し、保護者からの質問に対応する場として保護者会の開催などが望まれる。

卒業生への支援では、例年であれば、校友会組織「呉竹会」主催の講演会や卒後臨床講習会などが定期的で開催され、卒後のキャリアアップ支援が行われているが、令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となっている。

6 教育環境

校舎の施設・設備は、関係法令の基準に適合し、且つ教育上の必要性に対応した施設・設備となっている。施設・設備のメンテナンスについては、法定点検及び定期点検の結果に基づいて計画的に改修工事、設備更新を行っている。コロナ禍での遠隔授業等に対応するため、全館Wi-Fi環境が整備された。

学外実習では、鍼灸院、接骨院、医療機関、介護施設等の実習先を約100施設まで増やし、実習調整者と企業等の連携体制を確保している。令和2年度については、新型コロナウイルスの影響により学外の実習先での実習はすべて中止となったが、提携先の臨床実習指導者による招聘型の臨床実習が実施されている。

防災に関しては、消防計画に基づき防災訓練を実施するとともに、災害時における飲料水、非常食、その他の防災用品を備蓄している。学校の安全管理体制では、学校安全計画及び危機管理マニュアルに基づいて行われている。

7 学生の募集と受入れ

学生募集では、入学案内、ホームページ、SNS等により、受験生、保護者、高校関係者などに教育活動等の情報提供が行われている。また、学校説明会や高校での進路ガ

イダンス等では、資格取得の道筋や学習内容、卒業後の進路などに重点を置いて説明することで、ミスマッチ入学を防ぐ努力がなされている。同時に、体験入学やオープンキャンパス等の来校イベントを拡充し、学校の教育活動等の理解浸透に努めている。

入学試験は、神奈川県専修学校各種学校協会の入試倫理要綱に則り、実施時期や選考方法、選考基準などを明らかにしている。受験者数や合格者数、定員充足率の推移や募集状況等は法人に報告し、募集活動や入学試験の見直しが適宜行われている。令和3年度から、学力を担保し優秀な人材を確保するため、学科試験において特待生入試が導入されることは評価できる。

学納金は、同分野の学校の水準を把握した上、経費内容に基づいた学納金とするため、令和2年4月入学生から新しい学納金体制となっている。入学辞退者に対する授業料等の返戻については、学則及び募集要項に明記されていることを確認した。

8 財 務

法人の財務基盤は、学納金収入に依存しているため、定員充足状況の影響を受けやすい傾向にあるが、流動資産は十分確保されており、関連する財務数値も適正な範囲に収まっていることから中長期的に安定した財務状況となっている。一方で、学納金収入は減少傾向にあり、校舎の建て替えに伴う一時的な支出などから令和2年度の貸借対照表における翌年度繰越収支差額はマイナスとなっているため、引き続き入学者数の安定的な確保と中途退学者の抑制に努めていく必要がある。

予算・決算及び主要な財務数値に関する財務分析は法人にて行い、理事会の監査を受けたのち、ホームページに財務情報を公表している。また、外部の監査法人による内部統制監査を実施し、財務の適正な執行管理に努めている。

9 法令等の遵守

関係法令や監督官庁の指導に基づいて、必要な規則・規定等を整備し、適切な学校運営が行われている。

個人情報の取扱については、個人情報保護規程に基づいて、データの取扱やメール送受信のルールなどを設定し運用している。但し、外部の攻撃や人為的なミスによる漏洩リスクは常に潜在的に存在するため、定期的な研修や啓発が必要である。

自己評価及び学校関係者評価は規程に基づいて適切に実行されており、その結果はホームページに公表されている。

教育情報に関する情報公開では、「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づいて、教育活動及び学校運営に関する情報が網羅的に開示されている。

10 社会貢献・地域貢献

学校の教育資源を活用した社会貢献では、関連団体が主催する講習会や研修会の会場を提供しているほか、地域貢献では、附属施術所における外来患者の受入や学園祭でのチャリティー鍼灸・チャリティーマッサージなどを実施している。

国際交流では、学術交流を目的に上海中医薬大学での短期留学が実施されているが、令和2年度については新型コロナウイルスの影響により実施が見送られた。

学生のボランティア活動の奨励では、神奈川県体育協会主催の陸上競技やハンドボール大会におけるメディカルサービスステーションのボランティアスタッフとして学生を派遣しているが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により見送られた。

社会貢献・地域貢献を行うにあたり、学校施設の開放日や人員スタッフの確保など限度はあるものの、可能な範囲で学校の教育資源を活用した公開講座やボランティア活動の奨励などを引き続きお願いしたい。

以上